

平成28年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター 運営記録

施設位置図		巻末資料	
尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録	… 1	ビジターセンター傷病者対応事例	…24
コラム「尾瀬ボランティア」	…11	尾瀬のできごとをふりかえる	…25
尾瀬沼ビジターセンター運営記録	…12	平成28年シーズンの尾瀬トピックス	…27
コラム「尾瀬自然解説ガイド」	…21	尾瀬保護財団の沿革と概要	…28
コラム「一般の方から寄せられた声」	…22	ビジターセンターの自然体験プログラム	

公益財団法人 尾瀬保護財団

ビジターセンター位置図



尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村大字戸倉字中原山898-9



尾瀬沼ビジターセンター

〒967-0532 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1 番地



ビジターセンターまでの交通案内

尾瀬山の鼻ビジターセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約 60 分。
- ・鳩待峠まではふもとの戸倉から乗合バス・タクシーで約 25 分

尾瀬沼ビジターセンターまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の沼山峠休憩所から徒歩で約 60 分
- ・沼山峠まではふもとの御池から乗合バスで約 20 分

平成28年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻ビジターセンター）の管理運営を平成8年度から受託しています。

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：平成28年4月22日(金)～平成28年11月7日(月)（200日間）
- (2) 開所期間：平成28年5月16日(月)～平成28年10月30日(日)（168日間）
- (3) 休館日：なし

※4月22日～5月15日は、仮オープン(除雪・開設準備等)です。

2. 取扱時間

- (1) 施設開館 7:00～18:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

※開館・窓口案内の時間は、入山者の状況に応じて柔軟に対応しています。

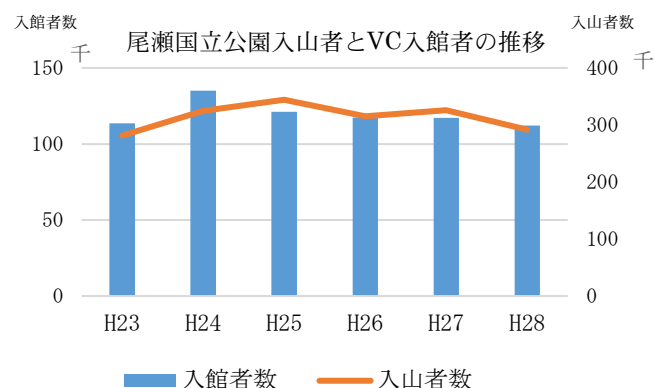
3. 入館者数 112,209人

※参考(尾瀬国立公園入山者 291,860)

過去5年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数

年 度	入館者	(入山者)
平成27年度	117,142	(326,100)
平成26年度	117,411	(315,400)
平成25年度	121,245	(344,200)
平成24年度	135,135	(324,900)
平成23年度	113,572	(281,300)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 9人 ※うち2人(*)は群馬県職員
- (2) 構成

職	氏 名	主な分掌業務
所 長	西 澤 政 春	全体統括
* 主 幹	宝珠山 恭子	管理運営、自然解説（駐在期間5月から6月）
* 副主幹	力山 亜紀子	管理運営、自然解説（駐在期間9月から10月）
嘱 託	森 山 暢 希	統括補助、環境学習指導、自然解説、施設管理
管 理 員	高 堀 かな	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	菅 原 與 晴	登山道整備、情報収集、クマ対策、窓口対応、自然解説
管 理 員	大 平 卓	登山道整備、情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	萩 原 舞	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	石 塚 愛	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応

Ⅱ 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻ビジターセンター内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成28年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	団体レクチャー	環境学習
参加者数(人)	356(97.3%)	1,452(90.3%)	224(66.5%)	113(33.5%)
実施回数(回)	47(42)	50(48)	9(9)	35(44)

※ 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実績回数

1. 自然観察会(写真1)

土日や祝日を中心に、山ノ鼻研究見本園をフィールドとして実施しました。

- ①. 実施場所：山ノ鼻植物研究見本園
- ②. 実施時間：7:15～8:00
- ③. 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

2. スライドショー(写真2)

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、季節写真や図表等、プレゼンテーションソフトを用いて担当者が解説することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

また、日没が早くなる秋は、宿泊者や山小屋経営者の意見を取り入れ、開始時間を1時間早めました。

- ①. 実施場所：山の鼻ビジターセンター内のレクチャールーム
- ②. 実施時間：19:00～19:40 (10月の5回のみ18:00～18:40)
- ③. 担当者：山の鼻ビジターセンター職員

3. 環境学習ミニガイドツアー(写真3)

山の鼻ビジターセンター周辺での解説者(ガイド)付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー(環境学習ミニガイドツアー)を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理のしくみや汚泥処理作業、また、環境を守るためには多くの費用がかかることなど、環境保全への取り組みについて説明しています。

- ①. 実施日：5月下旬～10月中旬までの毎日
- ②. 実施場所：山の鼻ビジターセンター周辺の県有施設、研究見本園及びその周辺
- ③. 対象者：家族連れ等の少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体
- ④. 実施時間：一行程あたり1時間以内
- ⑤. 担当者：山の鼻ビジターセンター職員、環境学習指導員、尾瀬ボランティア等

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を、職員や尾瀬ボランティアが実施しました。

6. 展示

- ① 自然情報システムによる花・動植物等尾瀬情報の検索
- ② 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
- ③ 気象情報を館内や野外掲示板に表示（天候・最高最低気温・各種注意報等）
- ④ 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子展示
- ⑤ 時節ごとの観察ポイントを紹介した写真やイラスト
- ⑥ 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
- ⑦ 〃 「鳥の鳴き声タッチペン」を活用した、野鳥コーナーの設置
- ⑧ 学習用顕微鏡を活用し、トンボ・チョウなどの観察コーナーを設置
- ⑨ バス・電車などの公共交通機関の情報提供
- ⑩ 至仏山を構成する蛇紋岩の展示、及び蛇紋岩性質の体験コーナー
- ⑪ オコジョ、ヤマネコーナー（写真、目撃情報の紹介）の展示
- ⑫ ニホンジカ（生態、尾瀬への影響、対策等の紹介）の展示
- ⑬ 写真展示コーナーの設置（野鳥、植物）
- ⑭ ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、対策等の紹介）の展示
- ⑮ 尾瀬国立公園のジオラマ、レリーフマップの設置
- ⑯ 入山者が撮影した尾瀬の思い出をプリントし、貼り出す「思い出コーナー」を設置
- ⑰ 尾瀬保護財団としてのイベント情報の表示

入館者目線でレイアウトを考え、常により良いレイアウト変更を行いました。

7. 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤメ平を巡回し、登山道や動植物の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。

また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

放射線量の測定を山の鼻ビジターセンター前で週1回（毎週月曜日）、牛首分岐等の尾瀬内3ヶ所は巡回に合わせて実施し、その結果を財団ホームページで公表しました。

Ⅲ. その他の公園施設等の維持管理（写真 4）

尾瀬保護財団では、山の鼻ビジターセンターの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の歩道（登山道・木道・橋等）を、平成8年度から管理受託しています。

1. 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

①. 供用期間

平成28年4月22日～平成28年11月6日（199日間）

※4月22日～5月13日、10月24日～11月6日の間は男女兼用として開設

②. 利用者数

229,421人（男性123,369人 女性106,052人）

参考

（単位：人）

平成27年度	281,191	男性	146,134	女性	135,057
平成26年度	244,727	男性	132,337	女性	112,390
平成25年度	285,325	男性	146,357	女性	138,968
平成24年度	199,788	男性	71,859	女性	127,929
平成23年度	224,447	男性	116,620	女性	107,827

③. 維持管理

（ア）清掃

1日1回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

（イ）点検

繁閑を考慮したペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

（ウ）合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、異臭や異状の有無を把握するように努めました。

（エ）啓発活動

トイレ施設の環境保護に対する取り組みの紹介、協力金についての掲示を作成しました。

2. 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

3. 木道等

群馬県管理歩道のうち、老朽化等により通行に支障がある箇所について、状況を確認しながら補修をおこないました。

①. 牛首地区

通行時の危険箇所を補修しました。

②. 下ノ大堀地区

腐朽箇所の浸食を観察するため、下ノ大堀川橋の前後36基の木道を定点撮影し、経過の記録をしました。

③. その他登山道等

八木沢道の草刈りや、富士見峠～白尾山～皿伏山間の支障木の処理を実施しました。

IV. 植生復元等の事業の実施

1. 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成 16～18 年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

- ①. 実施場所：横田代 標高約 1,880m 付近
- ②. 実施回数：巡回時随時
- ③. 実施内容：平成 18 年度に設置した観察区(5 区)について経過観察としての写真撮影

2. 至仏山保全対策の各種取り組み（写真 5）

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としているため、注意看板の設置など啓発活動を実施しました。

山の鼻ビジターセンターでは各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行い、東面登山道の踏み出し防止柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、尾瀬ボランティアの協力の下、作業を実施しました。

また、東面登山道の蛇紋岩を上りやすくするため、石にステップを切る試みを実施しました。

V. 巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

1. 巡回のエリアと頻度

- ①. 竜宮方面 : 1 回／週
- ②. 見晴方面 : 1 回／週
- ③. 赤田代方面 : 1 回／週
- ④. 三条ノ滝方面 : 2 回／月
- ⑤. 至仏山方面 : 2 回／月
- ⑥. 長沢～アヤメ平方面 : 2 回／月
- ⑦. 見晴～アヤメ平方面 : 2 回／月
- ⑧. 白尾山～皿伏山～尾瀬沼 : 1 回／年

VI. その他

1. 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による現金収入を集計・管理しました。

2. 開所式の実施（写真 6）

本年度の山の鼻ビジターセンターの開所式を、平成 28 年 5 月 16 日に開催しました。

尾瀬の関係者や山小屋のご主人など尾瀬に関わる方々の他、登山者など一般の方にも多数参加していただき、盛況となりました。

また、今回も尾瀬ボランティアによるハーモニカ演奏をしていただきました。

積雪のない開所式は初めてでした。

3. 尾瀬ボランティアの活動支援

シーズンを通じた入山口啓発活動やシーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地窓口としてのボランティア活動支援を行いました。（尾瀬ボランティアについては、P.11 のコラムを参照してください）

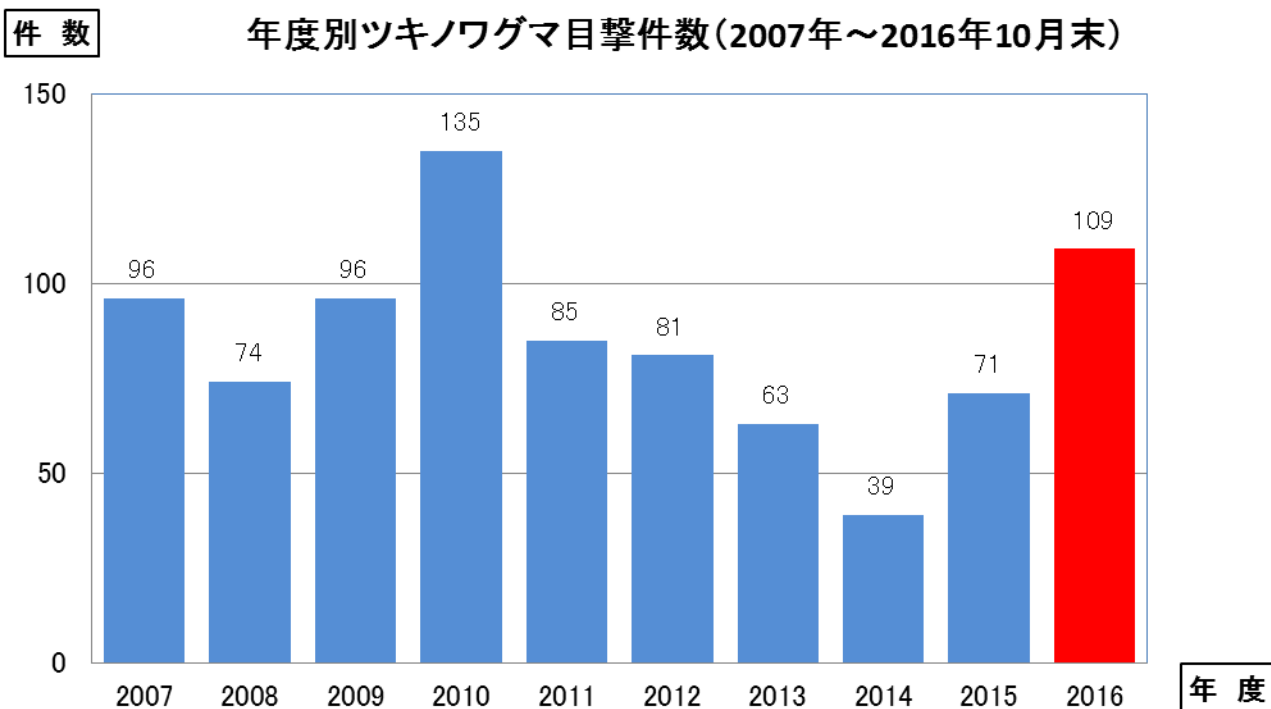
4. 傷病事故の対応（写真 7）

山の鼻ビジターセンターが対応した今年度の傷病事故件数は 30 件（平成 27 年度は 76 件）ありました。山の鼻ビジターセンター窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として協力した件数が含まれます。※18 年度(9 月中旬)より AED(体外式自動除細動器)を山の鼻ビジターセンターに設置。

（巻末資料 1 「傷病者対応事例」 P. 24 もあわせてご覧ください）

5. ツキノワグマ対策（写真 8）

ツキノワグマ対策員に任命された職員を中心に、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。職員は、群馬県主催のツキノワグマ対策研修や動物駆逐用煙火が取扱いできる講義の受講とともに、一般客からの目撃情報の収集や普及啓発、笹や葎などの刈払い作業等に協力した他、巡視や追い払いを行いました。



6. ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻ビジターセンターから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は 927 kg（前年度 1,527 kg）でした。（昨年は山の鼻ビジターセンター施設内外の不要品を整理搬出したため搬出量増となりました。）

7. 定時気象観測

5 月 31 日～10 月 30 日までの毎日、9 時と 15 時に視程・雲量等の目視観測を行うとともに、山ノ鼻地区に設置した気象観測機器で気温・降雨量などの観測を行いました。

8. ニホンジカ対策（写真 9）

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受け、深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を把握するために、研究見本園などの攪乱地において防鹿柵や自動撮影装置の設置・撤去を行い、定期的な巡視・点検を実施しました。



(写真 1)

【自然観察会】

週末や繁忙時期を中心に、山ノ鼻研究見本園をフィールドとして実施。

時間：7:15～8:00



(写真 2)

【スライドショー】

週末や繁忙時期を中心に、尾瀬山の鼻ビジターセンターのレクチャールームにて実施。

時間 19:00～19:40



(写真 3)

【環境学習ミニガイドツアー】

山ノ鼻地区の排水処理のしくみなど、環境保全への取り組みについて説明。

時間：随時受付 60 分以内



(写真 4)

【施設等の維持管理】

木道の状況に応じて、簡易な補修を実施



(写真 5)

【至仏山保全対策の取組】

踏み出し防止柵の設置
至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施



(写真 6)

【尾瀬山の鼻ビジターセンター開所式】

5月16日、財団関係者や山小屋関係者、登山者等の参加により開催

この時期、積雪が無いのは異例



(写真7)

【傷病事故の対応】

研究見本園、防災ヘリコプターで搬送される傷病者



(写真8)

【ツキノワグマ対策の取組】

人とツキノワグマが不意に遭遇する危険を減らすため、今年目撃が多発しているテンマ沢湿原で刈り払いを実施



(写真9)

【ニホンジカ対策の取組】

尾瀬ヶ原での防鹿柵の設置

コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から323人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクターの活動と、インタープリターの活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

（プロテクターの活動）

入山口（鳩待峠、沼山峠、大清水等）での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺等での美化巡回
至仏山東面登山道整備

（インタープリターの活動）

お話しボランティア活動（定点解説）
ビジターセンター支援ボランティア活動

現在の登録状況

323人（平成28年12月31日現在）

内訳：21都府県（群馬県106人、東京都49人、埼玉県43人、千葉県・神奈川県29人他）

平均年齢 65.0歳（最年長86歳、最年少20歳）

年度ごとの取り組み

（括弧内は参加のべ人数）▼

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
登録者数	582人	508人	558人	574人	500人	511人	514人	373人	384人	360人
入山口啓発活動	44日(524)	30日(625)	36日(635)	36日(538)	32日(508)	34日(371)	33日(312)	29日(311)	33日(294)	27日(291)
スポット解説			3日(24)	10日(83)	15日(112)	15日(99)	16日(85)	15日(88)	19日(75)	19日(73)
移入植物除去			2日(31)	2日(29)	2日(29)	2日(14)	2日(9)	2日(11)		
植生復元※11				22人	11人	16人	9人	13人	13人	12人
その他	※1	※2	※3.4	※5.6	※7.8	※9			※10	

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
登録者数	367人	348人	363人	355人	365人	340人	347人	311人	287人	295人	323人
入山口啓発活動	27日(249)	25日(177)	29日(153)	45日(146)	45日(114)	44日(135)	48日(126)	40日(98)	40日(115)	34日(96)	32日(116)
スポット解説	19日(63)	19日(44)	42日(43)	28日(56)	33日(58)	20日(34)	25日(35)	27日(32)	18日(25)	8日(15)	16日(26)
移入植物除去											
植生復元※11	16人	13人			3人	5人	5人	7人	5人	8人	
その他		※12									

その他

- ※1 尾瀬クリーン大作戦（以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続）
- ※2 鳩待峠路上駐車防止（現在は休止）
- ※3 至仏山登山道整備（以後継続）
- ※4 沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
- ※5 啓発活動従事者講習会
- ※6 尾瀬ボランティア帽子配布
- ※7 県道沼田、檜枝岐線の植生回復作業（現在は休止）
- ※8 お話しボランティア用の旗作成
- ※9 鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」
- ※10 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
- ※11 15年度までは至仏山、16～18年度は横田代、19年度は燧ヶ岳、22～27年度は至仏山で実施
- ※12 ビジターセンター支援ボランティア活動開始

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします ～

平成28年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を平成8年度から受託しています。
(但し、平成26年度を除く。)

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：平成28年5月18日(水)～平成28年11月2日(水) (169日間)
- (2) 開所期間：平成28年5月21日(土)～平成28年10月31日(月) (164日間)
- (3) 休館日：なし

※5月18日～5月20日は開所準備等、11月1日～11月2日は閉所作業等です。

2. 取扱時間

- (1) 施設開館 7:30～16:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

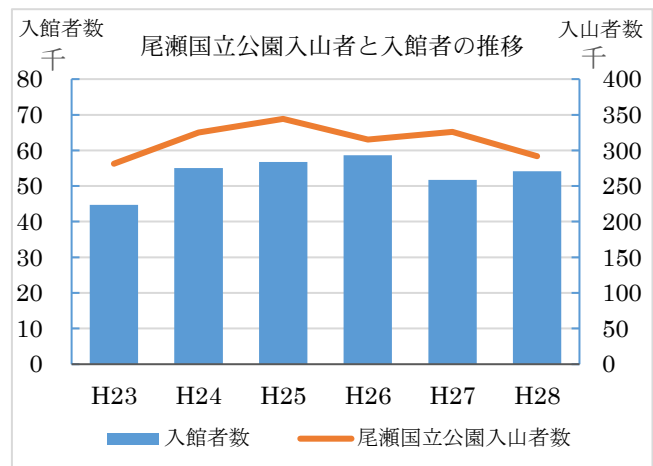
3. 入館者数

54,189 人

※参考(尾瀬国立公園入山者 291,860)
過去5年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
平成27年度	51,762	(326,100)
平成26年度	58,599	(315,400)
平成25年度	56,739	(344,200)
平成24年度	55,037	(324,900)
平成23年度	44,704	(281,300)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 7 人
- (2) 構成

職	氏 名	主な分掌業務
責任者	阪路 善彦	全体統括
副責任者	宇野 翔太郎	統括補助、消防・災害対応、企画プログラム、団体レクチャー担当
管理員	川上 藍	踏み込み防止柵管理、ボランティア担当、施設管理
管理員	石塚 舞雪	窓口対応、館内展示管理、情報発信管理、自然情報管理、
管理員	穂坂 義人	巡回管理、館内展示管理、自然観察会管理、踏み込み防止柵管理
管理員	江崎 花絵	窓口対応、収入金管理、公衆電話管理、施設管理
管理員	清水 千都	巡回管理、傷病対応、情報発信管理、クマ・シカ対策

Ⅱ. 自然解説事業等

利用者に尾瀬のふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、ビジターセンター周辺とビジターセンター館内の展示室、レクチャールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

表 平成28年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	夜のイベント	拡大イベント	見晴イベント	団体レクチャー
参加者数(人)	900 (100.7%)	1,678 (103.8%)	432 (732.2%)	128 (-)	1045 (121.8%)
実施回数(回)	211 (204)	52 (49)	31 (2)	14 (-)	24 (14)

※1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実施回数。929

2 自然観察会には、尾瀬を知るミニツアー及び朝イチ観察会を含む。

3 夜のイベントには、スライドショー及びナイトウォーク等を含む。

4 拡大イベントには、「職員が語る尾瀬のあれこれ」及び「春よこい上映会」、「シカ革のワークショップ」等を含む。

5 見晴イベントには、見晴スライドショー及び見晴観察会を含む。

6 表中の(-)は、新規であるか、又は過去とは実施方法が異なるため実績が無いことを示す。

1. 自然観察会(写真1)

尾瀬を知るミニツアーは日中1回、朝イチ観察会は日曜日を基本とし、月曜日が祝日の場合には月曜日に実施しました。

①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺

②. 実施時間：9:30～10:00(尾瀬を知るミニツアー)、7:30～8:15(朝イチ観察会)

③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

2. 夜のイベント(写真2)

土日祝日の前夜等に主に山小屋宿泊者を対象として、季節写真や図表等を用いたスライドショーや暗闇の尾瀬を歩くナイトウォーク、星空観察会等を実施することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム及びビジターセンター周辺

②. 実施時間：19:00～19:45

③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

3. 拡大イベント(写真3、4)

上記1. 2.とは別に拡大イベントとして「春よこい上映会」、「シカ革のワークショップ」、「職員が語る尾瀬のあれこれ」、「二神慎之介氏写真展」を実施しました。

(1)「春よこい」上映会

南会津のマタギのドキュメンタリー映画「春よこい」の上映会を実施しました。

①. 実施日：7月16日～8月28日までの金曜、土曜、日曜日

(8月11日には、我孫子監督とマタギの猪俣氏を迎えてトークショーを実施しました。)

②. 実施場所：

- ・金曜日 14:00～ 会場：見晴休憩所の多目的室
- ・土曜日 14:30～ 会場：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ・日曜日 8:30～ 会場：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム

③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) シカ革のワークショップ

尾瀬周辺で駆除されたシカ革を使って、参加者に尾瀬の思い出となるシカ革作品作りをしてもらいました。

- ①. 実 施 日：7月30日～10月10日までの土曜、日曜及び祝日で外部講師の都合がよい日
- ②. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターの展示室
- ③. 外部講師：おぜしかプロジェクト 小山抄子氏

(3) 職員が語る尾瀬のあれこれ

特定のテーマ「尾瀬とシカ」、「豊かな自然 尾瀬」、「自然保護発祥の地 尾瀬」について職員が解説を行いました。

- ①. 実 施 日：9月19日、22日、10月10日の19:00～19:45
- ②. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(4) 二神慎之介氏写真展

北海道の野生動物を撮り続けている二神慎之介氏の写真展を開催しました。

- ①. 実 施 日：9月16日～10月10日
- ②. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

4. 見晴休憩所でのイベント(写真5)

今年度は、見晴休憩所においても夜のイベント(スライドショー)及び自然観察会を実施しました。

(1) 見晴スライドショー

- ①. 実施場所：見晴休憩所の多目的室
- ②. 実施日時：7月5、25日、8月9、22日、9月13、26日、10月11日の19:00～19:45
- ③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2) 見晴観察会

- ①. 実施場所：見晴地区周辺
- ②. 実施日時：7月6、26日、8月10、23日、9月14、27日、10月12日の7:30～8:15
- ③. 担 当 者：尾瀬沼ビジターセンター職員

5. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショ

一や自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

6. ビデオ上映

尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」(約 18 分)や「尾瀬国立公園の誕生」(約 18 分)などのビデオ(スライド形式)の上映を随時受け付けました。

7. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を実施しました。

8. 常設展示(一部抜粋)

- ① 日本限定の植物たち
- ② 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
- ③ ツキノワグマコーナー(生態、目撃情報、対策等の紹介)の展示
- ④ オコジョコーナー(写真、目撃情報の紹介)の展示
- ⑤ 尾瀬の野鳥コーナーの展示
- ⑥ 尾瀬のシカコーナー(環境省アクティブレンジャーによるシカの行動調査)の展示
- ⑦ 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子展示
- ⑧ 尾瀬に生育する4種の樹木を用いた展示
- ⑨ 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
- ⑩ 気象情報を館内や野外掲示版に表示(天候・各種注意報等)
- ⑪ 尾瀬沼地域のジオラマの設置

9. 企画展示(写真6)

今年度は、平成28年度尾瀬沼ビジターセンター等企画展示物作成業務請負先業者が作成した展示物で企画展示を行いました。

- ①「尾瀬の植物そのひかりとかげ(春・夏編)」展示期間:5月21日(土)~7月31日(日)
- ②「尾瀬の植物そのひかりとかげ(秋編)」展示期間:8月1日(月)~10月31日(月)
- ③ 見晴休憩所では「檜枝岐からみた尾瀬」の企画展示を行いました。

展示期間:8月1日(月)~10月23日(日)

10. 自然情報等のリアルタイムな収集と発信(写真7、8)

尾瀬沼を中心とした地域の自然情報や利用情報等の収集を行い、得られた情報を利用者及び関係機関等に提供しました。巡回範囲外の尾瀬ヶ原地域や会津駒ヶ岳、田代山等については、尾瀬山の鼻V Cなどの関係機関と協力し情報の収集と発信を行いました。また、適正な利用が進むよう必要に応じて除雪や進入防止ロープ柵設置、注意喚起看板設置等を行いました。収集した情報は、V C館内での掲示及び配布、Facebook等のインターネットにより利用者へ提供しました。また、山小屋や入山口周辺の施設、関係機関へは尾瀬山の鼻V C及び本部などと連携し、紙面や電子ファイルなどにより情報を提供しました。

11. 来館者が増えるよう工夫を凝らした発信(写真9)

情報発信として、企画展のチラシを檜枝岐村全世帯に配布しました。また来館者の引き入れ及

ぶりピーターの獲得を目的として、来館そのものが目的となり楽しみとなるように昨年度に引き続き「尾瀬スタンプラリー」を実施しました。

Ⅲ. 施設管理及びその他の業務

1. 傷病者発生時の対応

檜枝岐村遭難対策協議会（尾瀬沼地区本部 尾瀬沼ヒュッテ）の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した傷病者の対応を行いました。対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。

計 21 件（うち、担架搬送 0 件、ヘリ搬送 2 件、AED 対応 0 件）

2. 危険箇所の掲示（写真 10）

巡回などで危険と判断した箇所について、必要に応じて除雪や注意喚起看板、またはロープ柵の設置を行いました。また湿原への踏み込み防止のために、必要に応じてロープ柵等の設置を行いました。

また、自然災害等による被害が発生した場合には、現地に注意喚起看板を設置するとともに、関係機関等に迅速な情報発信を行いました。

3. 非常時における公園利用者の誘導及び安全措置の実施

台風や豪雨等の荒天時には、朝方に木道・登山道などの巡視を行い、冠水・倒木等の状況を確認して迅速に関係機関への情報提供を行いました。

また、その他の緊急時においても利用者への情報提供及び注意喚起看板の設置等の必要な対策を行いました。

4. ニホンジカ捕獲業務の補助作業（写真 11）

尾瀬沼周辺で行われるニホンジカ捕獲業務において、シカセンサー受信機による確認作業や捕獲後の作業、下山前には冷凍庫の清掃を行いました。

Ⅳ. 尾瀬沼ビジターセンター職員が兼務したその他の事業

1. 福島県特植事業（写真 12）

(1) 尾瀬地区植生復元調査等業務

尾瀬地区の福島県地域における植生復元事業として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業、尾瀬保護調査会の調査同行などを行いました。

2. 財団自主事業

(1) 尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山口）やお話ボランティア活動等におけるコーディネートを行いました。



(写真1)

【自然観察会】

日中一回の尾瀬を知るミニツアーや、日曜日を中心とした朝イチ観察会を尾瀬沼ビジターセンター周辺をフィールドとして実施。

ミニツアー：9:30～10:00

朝イチ観察会：7:30～8:15



(写真2)

【スライドショー】

週末や繁忙時期を中心に、尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールームにて実施。

時間：19:00～19:45 45分程度



(写真3)

【拡大イベント】

専門家を招き、より深く専門性の高いイベントを実施。

（映画「春よこい」のトークショー）

写真は、映画「春よこい」の我孫子監督とマタギの猪俣氏をお迎えした時のトークショーの様子。



(写真 4)

【拡大イベント】

(シカ革のワークショップ)

おぜしかプロジェクトの小山抄子氏を迎えて、シカ革を使った作品作りを実施。



(写真 5)

【見晴イベント】

見晴地区にてイベントを実施。
見晴地区での朝イチ観察会の様子



(写真 6)

【企画展示】

平成 28 年度尾瀬沼ビジターセンター等企画展示物作成業務請負先業者が作成した展示物で企画展示を実施。



(写真 7)

【Facebook での情報発信】

Facebook 等のインターネットも活用して利用者へ情報を提供。



(写真 8)

【尾瀬情報（例）】

巡回等で収集した情報は定型の「尾瀬情報」にまとめ、利用者及び山小屋等の関係者へも提供。



(写真 9)

【尾瀬スタンプラリー】

利用の分散化等を目的として、尾瀬沼ビジターセンター、見晴休憩所、尾瀬山の鼻ビジターセンターの3つのチェックポイントを設定。



(写真 10)

【ロープ柵の設置、撤去】

湿原への踏み込みを防止するために実施。



(写真 11)

【ニホンジカ捕獲業務の補助作業】

ニホンジカ捕獲後の運搬等を実施。



(写真 12)

【福島県植生復元調査等業務】

植生復元調査に同行。

コラム 尾瀬自然解説ガイド

～ビジターセンターのサポート～

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、鳩待峠・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジターセンターが起点、終点になっています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数 (人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
18	240	190	50
19	252	245	7
20	452	448	4
21	294	290	4
22	292	292 (内尾瀬学校は 113)	0
23	239	197 (内尾瀬学校は 135)	42
24	642	450 (内尾瀬学校は 372)	192
25	890	633 (内尾瀬学校は 558)	257 (内環境学習は 255)
26	155	155 (内尾瀬学校は 122)	—
27	487	477 (内尾瀬学校は 415)	10
28	379	322 (内尾瀬学校は 256)	57

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在20名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、3年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心して安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。

～ ビジターセンター利用者みなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします ～

コラム 一般の方から寄せられた声

～ビジターセンターに寄せられた声から～

- ◇ 初めて尾瀬に来ました。以前からの願いが叶いました。この広い静かな豊かな自然保護が保たれていることに感銘を受けました。観光立国をめざす国政でもっと入山者が増え、荒れるかと心配です。どうか入山料を高くって自然を守って下さい。決して世界遺産になりませんことを願っています。
 - ◇ 年々来る度に人がたくさん入山されますが、トイレ有料化でも入れない人がいたりするのをみると料金を入れないとドアが開かないとか、入山料をぜひ1人3000円はとって下さい。長い間皆様の努力で守られて来たこの自然をぜひ後世に残してほしいから世界遺産登録は反対です。自然だいなしになります。
 - ◇ 宿泊施設等の屋根(軒下)にネットがはられツバメが営巣できないようになっており残念です。フン害なのかと思いますが、ツバメが営巣できるように工夫して欲しいです。
 - ◇ 初尾瀬です。ちょっとがっかりしたのは、今日すれ違ったガイドさんらしき人がだれもあいさつ声かけしてくれなかったことです。強制ではないですが、逆に率先してやってほしかったです。
 - ◇ I like OZE!! Do you like OZE?
 - ◇ おぜはきれいな物がいっぱいすごいです。こんな物はおぜでしか見られないのすごくうれしい時間だなと思います。またきたいです。
 - ◇ 尾瀬の自然はすばらしいと思います。オコジョやヤマネはとてもめずらしいようで見られませんでした。竜宮までいって見たかったですが、班全員のことを考えたうえで、いけませんでした。とても自然が豊かなので、そのまま大事にしてください。
 - ◇ 今年で(親に小学生の頃に連れて来られてから)約30年になります。ほぼ毎年来ていますが、毎年少しずつ違った表情と印象に驚かされます。最近のニホンジカの被害は残念ですが、ビジターセンターの方はじめ、たくさんの方々にこの環境があることに感謝です。今後ともよろしくお願いします！
 - ◇ トイレチップが高い。
 - ◇ はくせいや模型、図があってとても分かりやすく、楽しめました。尾瀬をイメージするかがみ等があったらいいと思いました。
 - ◇ おぜはしぜんがいっぱいあってすごいと思いました。見たことがない花やさかながいたりしてとても楽しいです。また来るので今みたいなおぜにしてください。またこようと思います。
 - ◇ しぜんがいっぱいあってテンション↑です。またきたい！
 - ◇ 岡山県から来ました。尾瀬はすごく良い所でした。花はとてもきれいでした。この「山の鼻ビジターセンター」の良い所は、さわってみたり、生き物を見られたりしてとてもよい体験でした。また来たいです！
 - ◇ きつねやヘビ、うさぎの展示をされていてすごいなと思いました。木道の造りを見ることができてすごいと思いました。東京都には無い自然でしたのでぜひまた来たいです。
 - ◇ とてもわかりやすいディスプレイでデザインもおしゃれで楽しく学習できました。私は学校の保健室に働いているのですが、ディスプレイをまねてみたいと思います！！ありがとうございます。
 - ◇ おぜに来て歩いた時、とちゅうでクマが出てこわかったです。道にたくさんいけがあってキレイでした。楽しかったです。
 - ◇ 3日間尾瀬の自然を体験しましたが、とても楽しかったです。また来たいと思いました。
 - ◇ 中学1年生になった時、数学の若い男性教師が♪夏が来れば思い出す～♪とカッコ良く歌ってくれて、いつか尾瀬に来ようと思っていて、やっと60才代になって来る事が出来ました。最初で最後になるかも知れませんが、又来られればと思っています。
 - ◇ いつまでもこの自然を保全してほしいです。入山者の規制もいずれ必要になるかもしれないですね。
 - ◇ 尾瀬に来る前から尾瀬についてのことをざっとは知っていたつもりでしたが、来る途中、軽い気持ちで木道から少しだけ外れようとしてしまったり、またそのルールの意味をよく理解していなかったり、その他様々な自然保護の取り組みや細かな現地の様子があまり分からないままここを登ったという感じでした。しかし登って歩くにつれて、そしてここのビジターセンターにくることでそれらをしっかり理解することができました。世界的にも貴重で学術的価値の高い植物、動物の宝庫がこれからも守られていてほしいです。来れてよかったです。ミズバショウ等、きれいでした！！
- ※一部抜粋して掲載しています。

- ◇ これからも頑張ってください。若い方が活躍されているのが素晴らしいと思います。自然保護の大切さを多くの世代に伝えてください。
- ◇ 花ばかりの上映より、動物の生態を上映して欲しいと思います。
- ◇ 大満足です。ぜひ今後も継続してこの自然の良さを多くの人に伝えてください。
- ◇ 宿泊先の山小屋で、シャンプーや石鹸類が使用できないことを事前に知らせて欲しかった。
- ◇ 木道が壊れている場所があり、環境省の焼印が押してありました。きちんと予算を確保して整備してほしいと思います。
- ◇ 場合によっては入山、入園料を徴収しても良いのではないのでしょうか？
- ◇ 写真も良かったがイラストがとても分かり易かった。解説してくれた女性職員がハキハキしていて好感が持てました。
- ◇ 今日、オコジョになりきろう!というので着てみたら楽しかったので、他の動物のもやってほしいです。
- ◇ 大人も子供も楽しめる展示が良かったです。各コースの細かい情報のカラープリントまで素敵に作成されていて驚きました。スタッフの方々も明るく対応して頂きとても心地よく、また訪れたいと強く思いました。
- ◇ 尾瀬友の会を30年間続けています。ボランティアもやりたいですが遠くで出来ません。せめて会費が自然保護に役立ってくれればと思っています。
- ◇ この素晴らしい尾瀬の大自然を日本の宝としていつまでも大切に後世に残して下さい。
- ◇ 宿泊者に向けたこのようなイベントは、とても良いと思います。尾瀬の自然を楽しむ人たちが保全活動にも参加すべきだと思うので、とても良いスライドショーでした。
- ◇ 山小屋なので退屈な感じかと思っていましたがイベントがあり良かったです。朝の観察会はもう少し時間をかけても良いと思います。
- ◇ とても楽しく過ごさせていただきありがとうございました。子供もビジターセンターが気に入ったようです。
- ◇ 木道整備などクラウドファンディングの様な方式で個人、企業、団体などから寄付を得るようなことが出来ないのでしょうか？
- ◇ ビジターセンターさんの展示などもその年で違うので立ち寄ります。必ず寄って「山の情報」を得るようにしています。
- ◇ 子供たちもイワナや植物、鳥の鳴き声に興味を持って、話を聞いていました。
- ◇ 気軽に声掛けして下さったので、いろいろ質問できました。同じくツアーも声掛けもあり参加できました。
- ◇ ツアーに参加して個人では得られない知識が得られて良かったです。
- ◇ とても勉強になりました。説明してくれなかったら分からないことを沢山知ることができました。
- ◇ 昨夜はスライドショーなどが楽しかったです。もう少し天候が良かったら星空も楽しかったでしょうね。
- ◇ 展示物などクイズ形式で興味がわいた、今後も内容を充実してください。
- ◇ 年によって咲く花が異なり、又、長いスパンで見るとシカだのシロツメ草などの侵入、自然の貴重さ、生き物の強さが学べました。花、鳥の展示も分かりやすいです。
- ◇ VCの展示物が工夫されている。DVDを見せてもらえるのが嬉しい！ありがとうございました。
- ◇ ナイトハイクや朝イチ観察会など参加したいものが沢山あります。週末だけではなく、平日にもあると嬉しいです。映画見たかったです。
- ◇ 展示が子供にも分かり易くとても参考になった。いろんな動物の毛皮を触れて楽しかったです。
- ◇ オコジョが見たいです。花の名前がわかったので大変良かったです。
- ◇ 分かり易く丁寧に案内していただきありがとうございました。短いけど素晴らしい時間でした。
- ◇ ニッコウキスゲやオコジョのことを教えてもらえて良かった。
- ◇ 尾瀬はとっても素晴らしい。このような自然を守っていくのはとても大変だと思うが頑張してほしい。こういうところにだったら税金を払っても良いなと思います。また来たいと思います。年をとっても来ることができるのが良い。
- ◇ 説明も分かり易く、おすすめスポットはとても素敵な景色でした。また違う季節にも来てみたいです。
- ◇ 尾瀬は来れば来るほどいろんな顔があり、またいろんな顔に出会いたかったです。

※一部抜粋して掲載しています。

巻末資料 1

平成28年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

転倒事故	8/10 テンマ沢湿原周辺の離れ大岩付近で、滑って岩に背中を強打。腰を強打し歩行不可のためヘリ搬送
転倒事故	9/26 ハトマチ沢付近の木道上で足を滑らせて転倒。左膝の靱帯が紫色に腫れており歩行不可のためヘリ搬送
転倒事故	9/26 木製階段から電気柵の間で滑って転倒。左足首骨折の疑い。救助隊により搬送
疲労	10/9 両足に痛みがあり歩行不可能。救助隊により搬送
転倒事故	10/10 ヨセ沢より山ノ鼻側で滑って膝を負傷。歩行困難のため救助隊により搬送

尾瀬沼ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

疾病	7/22 沼山峠展望台のベンチにて発症し、歩行困難のためヘリ搬送
転倒事故	7/23 あばら骨骨折の疑いがあり、歩行困難のためヘリ搬送

巻末資料 2

－平成 28 年度 尾瀬のできごとをふりかえる－

平成 28 年度は、過去数十年でも例のない少雪の影響により、積雪のない「尾瀬山の鼻ビジターセンター開所式」で幕を開け、尾瀬ヶ原のミズバショウは 5 月上旬に見頃をむかえ、例年 7 月 1 日に山開きとなる至仏山も、今年は鳩待峠～至仏山山頂間の登山道規制が 6 月 23 日に解除となる等、異例づくめでした。

また、尾瀬は 2 年前のツキノワグマ出産ラッシュにより、今年は予想どおりその時の子グマの親ばなれラッシュが始まり、特に鳩待峠～山ノ鼻間の 7 月・8 月はほぼ毎日のようにツキノワグマの目撃があり、尾瀬山の鼻ビジターセンターの職員はその対応に追われる毎日でした。

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)		尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)	
4 月			
1 9	開設準備(除雪作業)		
2 2	鳩待峠までの道路通行止め解除 公衆トイレ供用開始		
5 月		5 月	
1 1	管理員上山	1 6	管理員上山
1 2	見晴沼尻橋の橋板設置	1 8	職員研修を実施(尾瀬沼一周)
1 3	ツキノワグマ研修	"	浅湖湿原に注意看板設置
1 5	ごみ持ち帰り横断幕設置(鳩待峠)	"	白砂湿原に侵入防止ロープ柵設置
1 6	ビジターセンター開所式	2 1	ビジターセンター開所
1 7	防鹿柵設置(竜宮地区)	"	尾瀬を知るミニツアー開始
2 1	夜のスライドショー開始	"	大江湿原に侵入防止ロープ柵設置
2 2	朝の観察会開始	2 7	夜のスライドショー開始
		2 9	朝イチ観察会開始
6 月		6 月	
3	至仏山残雪調査	2	ナデッ窪道通行止め看板設置
4	ごみ持ち帰り運動(鳩待峠口)	4	ごみ持ち帰り運動(沼山峠口)
"	支援ボラ開始	"	オサバグサ祭り(6/19 まで)
5	轟音玉講習会	"	帝釈山山開き
1 5	消防署員による建物立入検査	9	ボランティアハウス設置(沼山峠口)
1 7	鳩待峠旧第一駐車場記念植樹	1 2	田代山山開き
1 9	至仏山東面登山道踏み出し防止柵設置 (尾瀬ボランティアが協力)	1 2	消防訓練を実施
2 3	至仏山の積雪が少ないため前倒しで一部 閉鎖を解除(鳩待峠～至仏山山頂間のみ)	1 8	轟音玉講習会(みなかみ町)
		1 9	"
		2 2	消防署員による建物立入検査
7 月		7 月	
1	至仏山山開き	3	燧ヶ岳夏山開き
3	笠ヶ岳登山道踏み出し防止柵設置	5	見晴休憩所で夜のスライドショー 実施(10/11 まで計 7 回)
"	尾瀬ボランティア講座	6	見晴園地で朝の観察会を実施
1 1	白尾山～皿伏山～尾瀬沼間巡回	1 3	見晴新道(新ルート)開通
1 5	釜山環境管理公団の尾瀬視察		

2 6	子どもサミット（7/29 まで）	1 6	「春よこい」上映会開始(8/28 まで)
2 8	関東地方梅雨明け	3 0	シカ革のワークショップ開始(10/10 まで)
8 月		8 月	
2	八木沢道笹刈作業		
3	「尾瀬の思い出」写真展示開始		
1 8	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策協議会臨時 会議(第一回)		
19～25	テンマ沢湿原ツキノワグマ集中監視	2 3	福島県植生復元作業(8/23～24)
2 4	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策協議会臨時 会議(第二回)		
2 6	ツキノワグマ対策草刈(テンマ沢湿原)	2 8	「春よこい」上映会終了
3 1	下ノ大堀川木道補修		
9 月		9 月	
		1	植生復元モニタリング(9/1～2)
7	山ノ鼻地区ツキノワグマ対策協議会 臨時会議(第三回)	4	檜枝岐・大熊町交流事業対応
		7	小沢平のオオハンゴウ駆除作業
1 4	見晴沼尻橋の倒木処理	1 0	尾瀬スタンプラリー開始(10/16 まで)
		1 4	消防訓練を実施
		1 6	二神慎之介氏写真展開始(10/10 まで)
1 7	至仏山登山道の整備	"	尾瀬沼ナイトウォークを実施(9/18 まで)
		2 3	星空観察会を実施(9/23～24)
		2 7	福島県植生復元作業
		3 0	星空観察会を実施
10 月		10 月	
4	展示用新プロジェクター設置	1	星空観察会を実施
9	横田代木道修繕		
"	鳩待峠ゴミ持ち帰り横断幕撤去		
1 0	市毛良枝氏来所	1 0	二神慎之介氏写真展終了
1 1	2 8 年度交通規制終了	"	シカ革のワークショップ終了
1 5	至仏山東面登山道石切り作業	1 1	見晴休憩所での夜のスライドショー 終了
1 6	笠ヶ岳柵外し	1 5	「ありがとう尾瀬」清掃
1 7	女子トイレ 9 基閉鎖	1 6	尾瀬スタンプラリー終了
2 2	至仏山東面登山道踏み出し防止柵撤去 (尾瀬ボランティアが協力)		
2 3	「ありがとう尾瀬」清掃	2 5	ボランティアハウス撤去(沼山峠口)
"	女子トイレ閉鎖		
2 4	窓口業務時間 8:00～16:00 に変更	2 9	尾瀬沼で初雪を観測
3 0	V C 閉館		
2 9	見晴沼尻橋板撤去	3 1	V C 閉館
1 1 月		1 1 月	
2	管理員下山	2	管理員下山
6	下の大堀橋橋板撤去		
"	公衆トイレ供用終了		
7	職員下山		

巻末資料 3

～ 平成 28 年シーズンの尾瀬トピックス ～

- ☆ 過去数十年でも例のない少雪のため、尾瀬ヶ原ではミズバショウが 5 月 GW に見頃になりました。
- ☆ 尾瀬山の鼻ビジターセンターの開所式が行われ(5 月 16 日)、尾瀬ボランティアによるハーモニカ演奏が披露されました。
- ☆ 沼山峠の山開きは、少雪で既に入山できる状況なので、中止になりました。
- ☆ 尾瀬山開きが、奥只見湖ダムサイト（新潟県側）で開催されました。(6 月 1 日) 各自治体(魚沼市、檜枝岐村、片品村)輪番制の初年度として行われました。
- ☆ 大清水口から一ノ瀬まで低公害車両による乗合運行が 2 年目となりました。(6 月 11 日～10 月 16 日 ※天候や路面状況で年によって変更あり)
- ☆ 至仏山の入山規制が少雪のため、6 月 23 日より鳩待峠～至仏山山頂間に限り閉鎖が解除されました。
- ☆ 渋沢温泉小屋は、平成 27 年の大雪の影響で倒壊したため、今後の営業を廃止すると発表しました。
- ☆ 土砂災害により通行止めとなっていた見晴新道は、7 月 13 日より一部新ルートに付け替えて開通となりました。
- ☆ 尾瀬ヶ原地区で 3 県（群馬、福島、新潟）主催の「尾瀬子どもサミット」が開催されました。3 県の小中学生 60 名が集まり、尾瀬の自然について体験し、学ぶとともに交流を行いました。(7 月 26 日～7 月 29 日)
- ☆ 鳩待峠～山ノ鼻間でツキノワグマの目撃が多発。事故防止のため関係者によって集中監視体制をしくと共にテンマ沢湿原周辺のより広い範囲の草刈りを実施しました。(8 月 26 日)
- ☆ 尾瀬サミットは、台風 10 号が関東や北日本に接近、上陸する恐れがあるため、中止されました。(8 月 30 日～8 月 31 日)
- ☆ 今年度の尾瀬国立公園の入山者は 291,860 人で、1989 年以降、30 万人を下回るのは東日本大震災のあった 2011 年以来、2 度目。

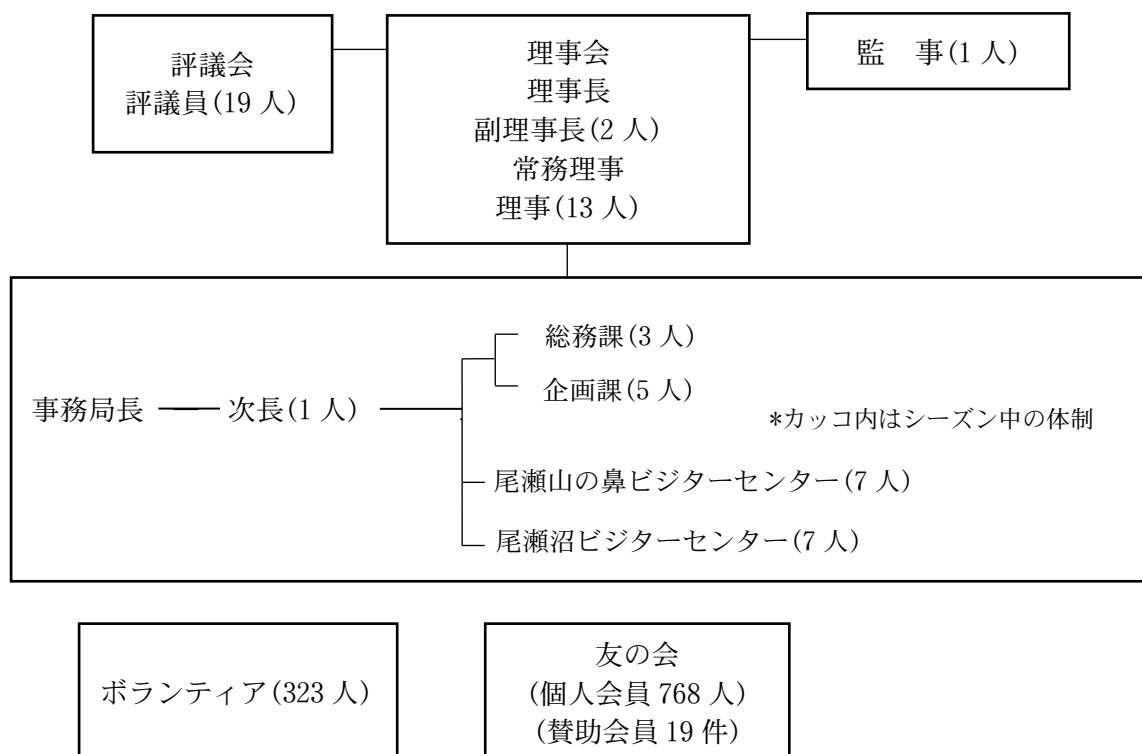
尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

平成 4 年 8 月 4 日	福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」(尾瀬沼山荘)
平成 7 年 6 月 13 日	財団設立発起人会(東京都内)
" 8 月 3 日	財団設立、第 1 回理事会(尾瀬沼ヒュッテ) 群馬県大友庁舎(前橋市大友町)に事務所設置
平成 8 年 5 月 15 日	尾瀬沼ビジターセンターの運営開始(環境庁から受託)
" 5 月 18 日	尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始(群馬県から受託)
平成 9 年 4 月 1 日	群馬県公社総合ビル(前橋市大渡町)に事務所移転
平成 11 年 7 月 13 日	特定公益増進法人に認定(財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後 2 年毎に認定を更新)
" 9 月 3 日	群馬県庁(前橋市大手町)に事務所移転
平成 25 年 4 月 1 日	内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

- ・ 設立日 平成 7 年 8 月 3 日
- ・ 基本財産 約 16 億円(平成 27 年度末現在)
- ・ 主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
- ・ 組織体制



施設概要

- ・ 尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県
鉄骨木造 2 階建 延床面積 344 m² 平成 5 年築
展示室 69 m² レクチャールーム 80 m² 事務室 17 m²
- ・ 尾瀬沼ビジターセンター 設置者：環境省
鉄骨木造 2 階建 延床面積 493 m² 昭和 60 年築
展示室 132 m² レクチャールーム 99 m² 事務・会議室 32 m²

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの平成 28 年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- ・ 施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
- ・ 停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては補正していません。公衆トイレについては山ノ鼻のみセンサーが設置されています。

その他

- ・ 比率（％）で示した数値は、すべて小数点以下第 2 位を四捨五入しています。
- ・ 本文中に「V C」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

平成 2 8 年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター運営記録

平成 2 9 年 3 月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目 1 番 1 号

公益財団法人 尾瀬保護財団

Tel (027)220-4431

fax (027)220-4421

ホームページアドレス <https://www.oze-fnd.or.jp/>

E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

— お問い合わせは —
公益財団法人 尾瀬保護財団
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
TEL 027-220-4431
FAX 027-220-4421
E-mail : info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを開催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄ってみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください

窓口案内

スタッフが尾瀬のことにお答えします
窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00
尾瀬沼 VC 7:30～16:00

展 示

尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。
開館時間
山の鼻 VC 7:00～18:00
尾瀬沼 VC 7:30～16:00

尾 瀬 情 報

花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。
お出かけの前にチェックしてみてください。
尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。
URL <https://www.oze-fnd.or.jp/>

セルフガイド

一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。
「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」「アヤメ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。

自然観察会

一緒に湿原へ出てみましょう！
周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。
山の鼻 VC 7:15～8:00、尾瀬沼 VC 9:30～10:00 等
※開催時期についてはお問い合わせください。

企 画 展 示

尾瀬を深く知るための特別展示です。
※開催時期・内容についてはお問い合わせください。

尾瀬自然解説ガイド

実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間のガイドをします（コース限定、有料、要予約）。
※開催日についてはお問い合わせください。

お話しボランティア

平日の休憩ベンチには個性豊かな解説ボランティアがいます。
※開催時期や内容についてはお問い合わせください。

ビ デ オ 上 映

尾瀬のビデオが上映されています。
急な申込みでも大丈夫！
山の鼻ビジターセンターで上映
Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」（20分）
Hi-Vision「トンボ」（18分）
Hi-Vision「クモ」（18分）
「尾瀬その成り立ちとしくみ」（16分）
「尾瀬はふるさとー空を渡る生き物たちー」（10分）
尾瀬沼ビジターセンターで上映
「尾瀬国立公園の四季」（16分）
「尾瀬沼の四季」（13分）
*ほかにもさまざまなビデオがあります。

スライドショー

スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る
「今日のショーはあるの？」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。
夜：19:00～19:45（45分程度）
※開催時期についてはお問い合わせください。

団体レクチャー

グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています（要予約）。

拡 大 イ ベ ン ト

専門家をお招きすることで、より深く専門性の高いイベントを実施しています。※開催時期についてはお問い合わせください。
※尾瀬沼 VC にて実施

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。